

瀧波乃五智如来 平起七言絶句 上平声十灰韻

瀧波在たきなみ五智如来ちによらい在あり

洞谷紫雲金色催ほら たぐ しうん こんじき ちよお

惶遽村翁西德寺こうきよ せんおう さいとくじ

昔時せきじ今いま至いた邑人財ゆうじん たから

光耀 二見文曆

語 訳

滝波に当時は志津村滝波。戦後三村合併で清水町滝波。現在は福井市滝波町。五智如来に大日如来。阿弥陀如来。釈迦如来。薬師如来。宝生如来。福井県の

指定文化財。

惶遽に恐れ畏まって再拝する事。 邑人に村びと。

意 解

千二百年を経た五智如来様が村人たちの手で今も護り続けられている、大変尊い事だと思う。(天正二年の一向一揆の際仏閣などは焼かれたが、さすがに仏像だけは、焼くに偲びず谷に埋めたものか)

その後洞ヶ谷は、紫の雲が棚引き、金色に輝きだしたので、村人達によって掘り起こされ村中大騒ぎになった。

西徳寺や、むらおさは、恐れかしまって再拝し、以後、現在まで滝波の宝として、大切に護ってきた。(福井県の指定文化財)